

慶應義塾大学の伊藤由希子さんは政府の行政改革の仕事がきっかけで知り合った。懇親会でお目にかかった時に印象的だったのが、仕事道具を詰め込んだ大きなリュックだ。

子育てをしながら仕事をこなそうすると、家で作業するために資料などを持ち帰らないといけないが、リュックでないと小さい子どもを抱っこできない。大きなリュックを見て、伊藤さんも仕事と子育ての両立に奮闘する仲間なんだなと感じた。

翌年の懇親会の時には、行革の仕事でプランクが無かつたのにお子さんが一人増えていて、さらに仲間意識を強くした。子どもは社会との接点になり、子育てを通して社会の様々な人と関わりが生まれ、広い世の中を知る機会にもなる。伊藤さんもきっとそうした経験を仕事にも生かしているのだろうと拝察している。

医療経済学を研究されている伊藤さんは専門領域がそれほど被かぶっているわけではない。だが、世の中全体を見回して、おかしいことはおかしいとはつきり言う、物おじしない姿が頼もしい。

こうした人が自分より後の世代にいることを知り心強く思っている。体を大事にしながら、次世代のためにこれからも力を発揮していくほしい。（かわむら・さゆり）日本総合研究所主席研究員